

「ウ.フレルスフ内閣総辞職に関する国家大フラル決議案を審議・採択」

Source : montsame.mn、news.mn、 gogo.mn、 ikon.mn.2021.01.21.

オルゴエ産院（旧名は第1産院）で子供を産んだ19歳の女性の家族がコロナウィルスに感染しているので母子を至急封鎖しなければいけないと言うことで厳寒の夜、母子を産院から感染症センターへ搬送している姿の撮影・写真がソーシャルネットワークを流れ、医師達の非人間的な行為に対し不満を抱えた市民(殆ど若者達)が水曜日の朝から夜22時までスフバートル広場で抗議デモを行い、国家非常事態会議の幹部（Y.ソドバートル議長）や T.ムンフサイハン保健大臣の辞職を求めたことは結果としてウ.フレルスフ内閣の総辞職に繋がった。Y.ソドバートル副首相兼国家非常事態会議議長と T.ムンフサイハン保健大臣が市民の要求に応じ、辞表を出したがウ.フレルスフ首相は“パンデミック対策の複雑な時期に一番頑張ってくれた二人の大臣だけを辞職させるより首相が責任を取って内閣総辞職する”と意思決定したと言う。首相のこの意思決定は与党人民党幹部会、国家大フラルに於ける人民党議員派閥、國務常任委員会での審議を経て、本会議で審議され、投票に参加した63人の議員の60人の賛成多数で内閣総辞職に関する決議が採択され、ウ.フレルスフ内閣は総辞職した。

ウ.フレルスフ首相は本会議の前に内閣総辞職についての声明を発表し、二日前に子供を産だばかりの女性を子供と一緒に感染症センターへ搬送する際に乱暴的失敗を起こした医師達の非人間的な行為に対し謝罪し、“非常に残念なことが起きた。抗議デモを開催した青年達の行為は当然なことである。二人のキャビネットメンバーが要求に応じ辞表を出したが首相としてキャビネット全員で責任を取る決定を出した。これは倫理である。モンゴルの政界に於ける新しい文化の始まりでもある。”とのべた。

更に“青年達の平和のデモを政治的目的に使おうと言う動きも残念ながらあった。私が信じ、連携して来た大統領が国民を挑発し、金を配ったものを送り込み、暴動に呼びかけ、デモを政治的目的に使おうとした。従い、首相として、大統領と政府の間の対立、これによる混乱の発生の防止も考えて辞職することを決めた”と発現した。

首相は本会議で“私はパンデミック対策の責任を取るのを逃げていない訳ではない。パンデミック対策は誰でもできるものでもない。我が政府は全力を尽くして取り組んで来た。モンゴルだけでなく経済や医療が発展した先進国も困っている。パンデミック対策で人権侵害も起きている。失敗もしている。でも、19万人の公務員全員が悪い訳ではない。少数の人間の無責任な行為によりこの問題が起きた。下のレベルでも失敗が起きたら首相が責任を取るのだと言うことを理解して欲しい。今後、議員として、製油所建設事業、水力発電所建設事業の実施促進や正義の確立に引き続き取り組んで行く”と述べた。